

湘南藤沢キャンパス (SFC) における 保健管理センターの認知度および健康意識調査

佐藤幸美子* 辻岡三南子* 小野 恵子*
齊藤 郁夫*

大学における健康管理を担う保健管理センターの役割は重要である。

数校の大学では、学生が保健管理センターを利用する際の目的や満足度、利用状況等の調査報告¹⁾²⁾³⁾がされている。しかし、我々の大学では、保健管理センターが設立して約30年になるが、保健管理センターに関する学生を対象とした調査は実施されていなかった。

そこで、今回、湘南藤沢キャンパス（以下SFC）において、学生における保健管理センター（以下センター）の認知度と共に健康意識を調査し、今後のセンター活動を検討した。

【対象と方法】

対象は、SFC 在籍学生数約 4,600 名のうち、新1年生を除いた大学生 3,286 名（男性 1,940 名、女性 1,346 名）、大学院生 570 名（男性 404 名、女性 166 名）の合計 3,856 名である。2003年度の定期健康診断時に、受付でアンケート用紙を配布し、当日、無記名で回収した。有効回答者数は 2,848 名（有効回答率 73.5%）であった。アンケートの項目は、センターの認知度、利用の有

無、利用目的、利用回数、センターの存在を知った方法、また、現在の学生の関心事、健康に関する意識である。

【成 績】

センターの存在を知っていると答えた者は 2,848 名中 1,381 名（48.5%）であった（図1）。

センターの存在を知っていると答えた 1,381 名のうち、利用している者は 402 名（29.1%）、利用していない者は 979 名（70.9%）であった（図2）。

センターの存在を知っており、かつ、利用し

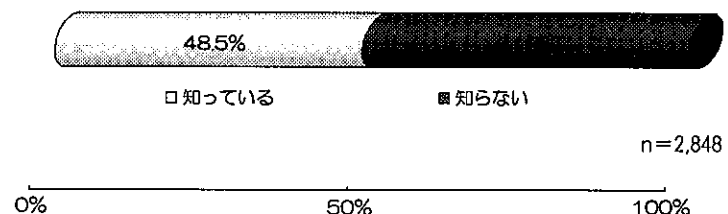


図1 認知度

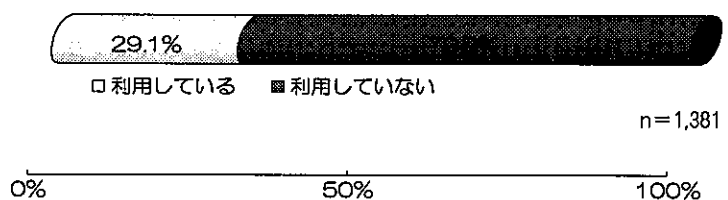


図2 知っている者の中での利用度

* 慶應義塾大学保健管理センター

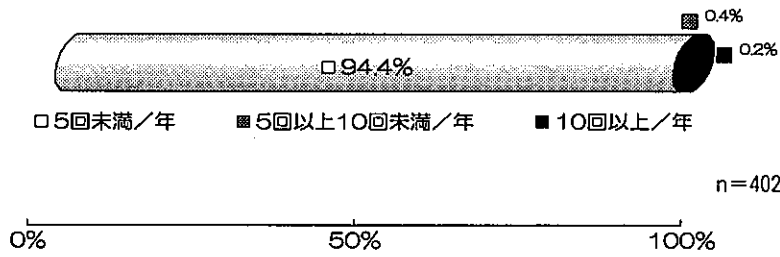


図3 利用回数

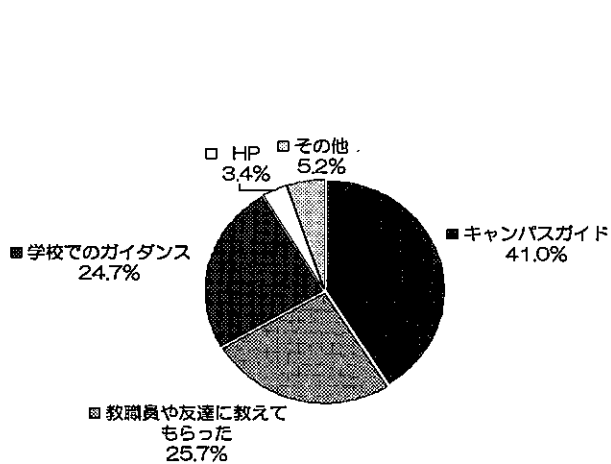


図4 センターの存在を知った方法

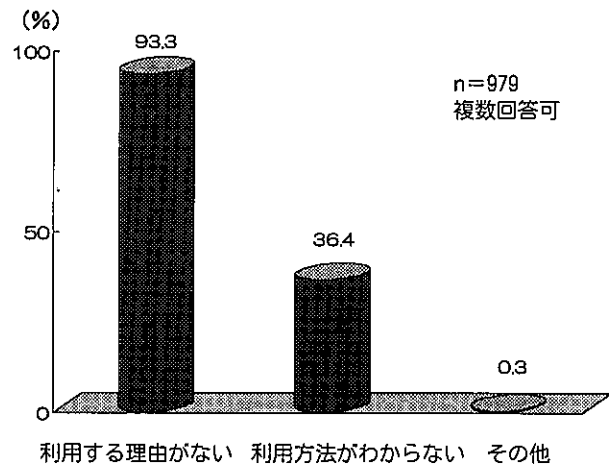


図5 存在は知っているが利用していない理由

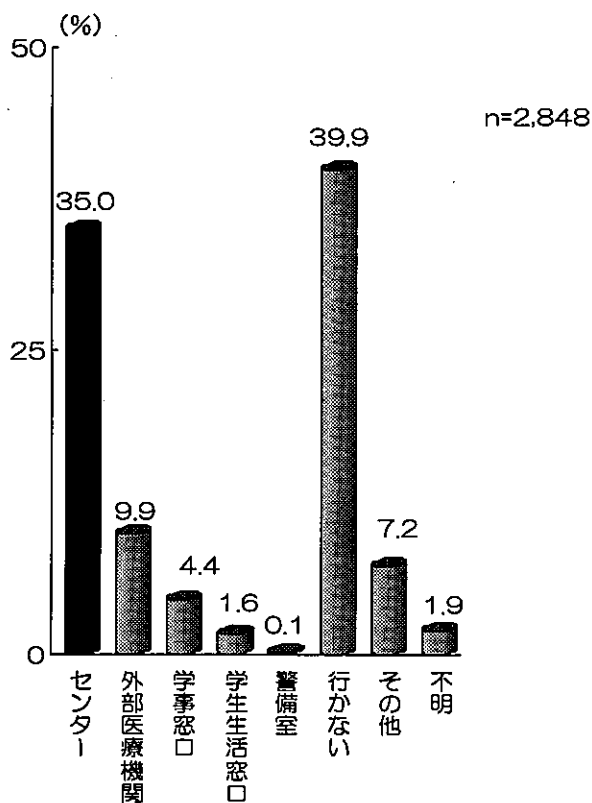


図6 体調不良時どこに行きますか

ていると答えた 402 名の利用回数は、5 回未満/年の者が 94.4%、5 回以上10回未満/年の者が 0.4%、10回以上/年の者が 0.2%であった (図3)。

センターの存在を知っていると答えた 1,381 名が、センターを知った方法は「キャンパスガイド」からが 566 名 (41.0%)、次いで「友達や教員に教えてもらった」が 355 名 (25.7%)、「ガイダンス」が 341 名 (24.7%) であった (図4)。

センターの存在を知っているが利用はしていないと答えた 979 名について、利用をしない理由は「利用する理由がない」が 913 件 (93.3%) であり、「利用方法がわからない」が 356 件 (36.4%) であった (図5)。また、有効回答総数 2,848 名のうち、学校内で体調不調となった時に 996 名 (35.0%) が、処置を受けたい時に 1212 名 (42.6%) がセンターに来所すると答えた (図6・図7)。

現在一番気になることは、「進路」と答えた者が 2,848 名中 1927 名 (67.7%) で最も多く、「健康面」は 388 名 (13.6%) であった (図 8)。

現在健康面で気になることが「ある」と答えた者は有効回答総数 2,848 名中 823 名 (28.9%) であり、「ない」は 1985 名 (69.7%) であった。「ある」と答えた 823 名が、健康で気になることとしては、「だるい」が 20.8%、「体型」が 18.5%、「その他 (膝の痛み, 腰痛, 視力低下等)」が 17.3% であった (図 9)。

健康診断後の感想は、「自分の健康状態を確認できる良い機会になった」が最も多かった (図 10)。

【考 察】

学生のセンター認知度は 48.5% であり, 他の大学で実施した調査報告の 98.5%¹⁾より低かった。

SFC では, センターは「心身ウエルネスセンター」の一部門として, 心理学, 体育学のスタッフと共に健康管理に携わっている。今回は「心身ウエルネスセンター」に関する調査は行わなかった為, 学生が「センター」と「心身ウエルネスセンター」の名称の違いを理解しているかどうかは明らかではないが, 認知度が低い理由の 1 つとして, 公式名称が異なることが考えられる。学生のセンター利用数は, 約 1,500 ~ 2,000 件/年であり, 実際, 学校内で体調不調となった時や処置を受けたい時, 全体の 2,848 名中 73 名 (2.6%) の者が

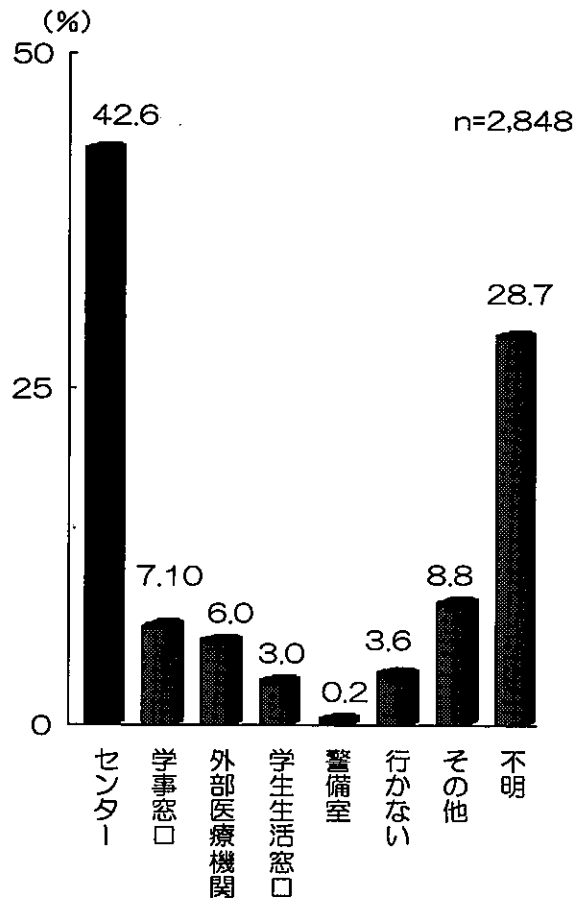


図 7 処置を受けたい時どこに行きますか

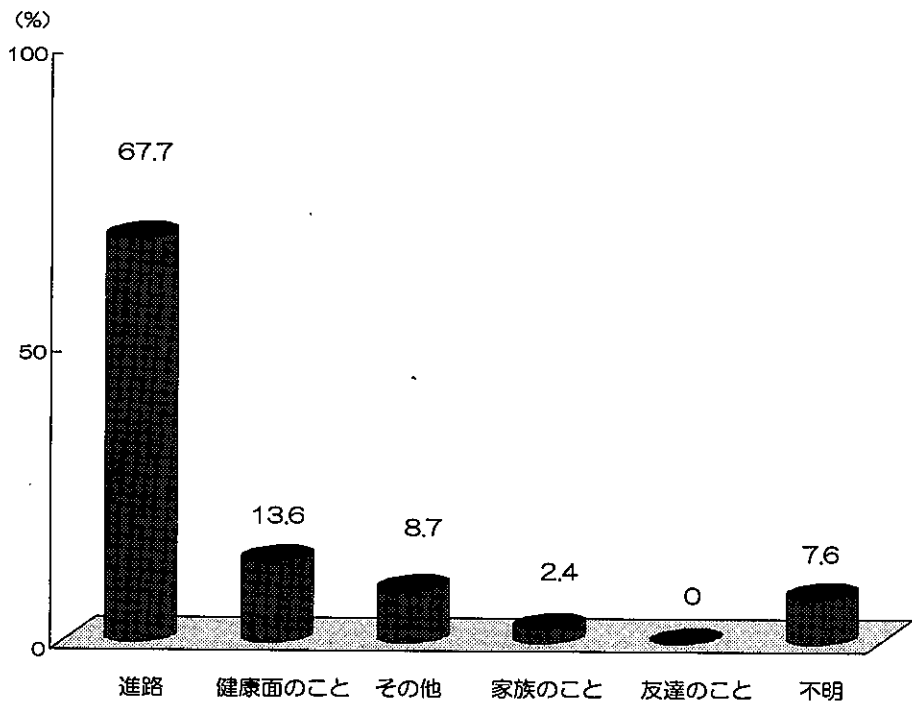


図 8 現在一番気になることは何ですか

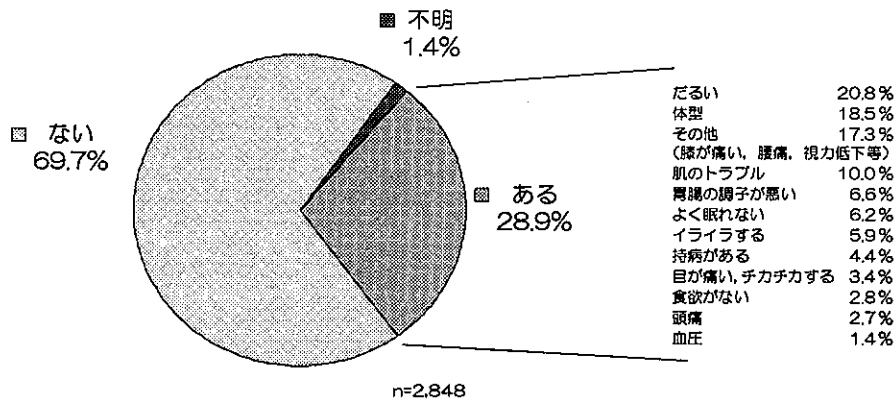


図9 健康面で気になることはありますか

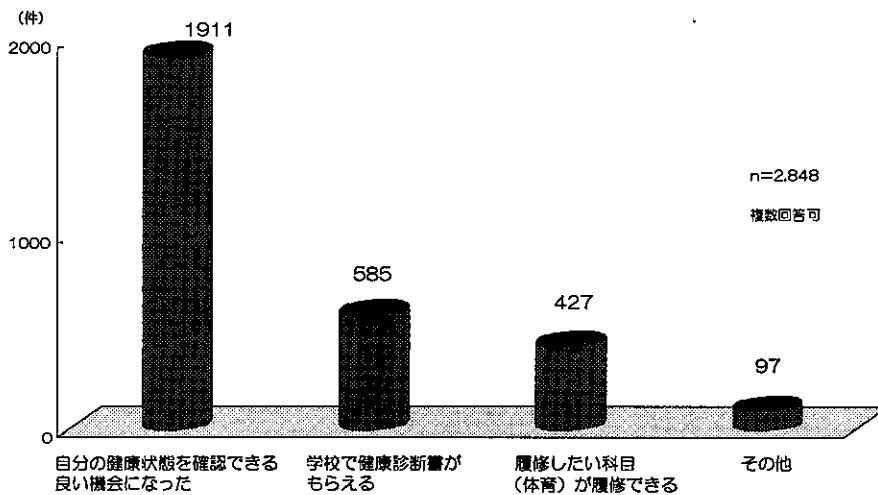


図10 健康診断受診後の感想

「心身ウェルネスセンターへ行く」と記載していたことから、「センター」を「心身ウェルネスセンター」という名称で認識しているとも考えられる。今後は、SFCにおけるセンターの位置づけおよび目的、利用方法を理解してもらえるような広報活動が重要であると考えられる。キャンパスガイドはさらにわかりやすく、ガイドはこれまでの説明内容・方法を確認し、検討していく必要がある。また、SFCはキャンパスネットワーク⁴⁾が充実している為、今後の広報活動の一つの方法として活用することも検討中である。

認知度は48.5%でありながらも、処置を受けたい場合のセンター利用を希望する者は2,848名中1,212名(42.6%)と多く、これは、

既に報告済みの年間応急処置数と一致する⁵⁾。また、今回学生の健康に対する関心は13.6%と低かったが、これは従来の報告⁶⁾と一致する。

健康診断受診後の感想では「自分の健康状態を確認できる良い機会になった」が最も多かったことから、我々の保健活動が、学生の健康への関心を高める機会となると考える。

今後、学生自身が生涯を通じて、自らの健康を管理し、改善していくことができるような能力の育成を目指すことがセンターの役割と考える。学生生活を

支える保健サービス機関としての充実と、学生の健康への意識を高めるような積極的な保健活動を行うことにより、学生のセンター認知度を高めていきたい。

【総括】

1. SFCでの学生定期健康診断時の際に、大学生および大学院生3,856名を対象に、センターの認知度および健康意識調査を行った。
2. センター認知度は48.5%であった。
3. センターの存在を知ってはいるが利用していない理由としては、「利用方法がわからない」が36.4%であった。
4. センターの利用方法、利用目的を理解してもらえる広報活動を検討していくことが今後の

課題である。

5. 学生の健康に対する関心を高める為の保健活動内容を検討していく。

文 献

- 1) 渡辺厚, 他: 保健管理センターの利用満足度について——学生アンケートから——. CAMPUS HEALTH, 40 (1): 246-247, 2003
- 2) 久保みさほ, 他: 健康管理センター利用に関する検討 第 1 報. CAMPUS HEALTH, 38 (2): 451-454, 2002
- 3) 和田佳子, 他: 健康管理センターについての意識調査 (第 2 報). 第 29 回全国大学保健管理研究集会報告書, 283-284, 1991
- 4) 慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス LAMP 2 (LAN Amenity Monitoring Project 2) 委員会: 第 2 回 SFC-CNS 利用実態調査キャンパスライフ満足度調査報告書 (LAMP 2 Report), 2000
- 5) 慶應義塾大学保健管理センター年報: 2000, 2001, 2002
- 6) 森重美奈子, 他: 学生の健康・健康診断に関する意識調査. 慶應保健, 19: 65-69, 2001